

宮古教育事務所「特別活動 学級活動(1)学習指導案」作成のポイント

第5学年 学級活動(1)指導案

令和8年7月7日(火) 5校時
5年1組 30名
授業者：宮古 碧

1 議題 「5年生がんばったね会をしよう」

内容：学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

POINT

- 児童生徒が自分たちの生活から問題を見つけ、議題として設定する。
- 教師の適切な指導の下に、事前、本時、事後の一連の活動を指して「議題」とする。

2 議題について

(1) 児童(生徒)の実態

POINT

- 以下に示した項目の内容を含んだものにして記述する。
- 児童(生徒)の学級生活における実態(アンケートや学校生活の観察からの様子を具体的に捉える)
 - これまでの学級活動の取組
 - 発達段階に応じた「評価規準」と照らし合わせることにより、話し合い活動における課題や目指す方向性を具体的に捉える。

(2) 議題選定の理由

POINT

- 【×議題設定 → ○議題選定】
- 議題が選定された背景
 - 教師の願いや指導観(議題に対し学級全体が取り組むことで、どのような資質・能力が育まれ学級や学校生活がどのように向上していくことが期待できるかについて)を記述する。

3 校内研修テーマとの関わり

2年研、中堅研については個人の課題研究テーマとの関わりを記述する。

課題研究テーマ
～サブテーマ～

POINT

本活動を通して、研究テーマへどのように迫っていくのかを記述する。

4 第5学年及び第6学年の学級活動(1)の評価規準

※中学校：学級活動(1)の評価規準

〈例〉よりよい生活を築くための知識・技能	〈例〉集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	〈例〉主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
----------------------	--------------------------	-----------------------------

POINT

- 学習指導要領に準じて、各学校で定めた「評価の観点」及び「評価規準」を記載する。
- 各学校で定めていないときには、『学習指導要領解説(小、中特別活動編)』や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』第2編の例示を参照する。

5 事前の活動〈記入例〉

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 【観点】〈評価方法〉
6月25日 昼休み	・提案ポストの議題案を確認し 選定する。【計画委員会】	・議題選びの視点を念頭において選 定することを指導する。	◎学級生活をよりよくする ために進んで議題を 考えたり、選んだりし ようとしている。 【主体的態度】〈観察〉
6月25日 帰りの会	・議題を決定する。 【学級全員】	・計画委員会で選定した議題案をも とに学級全員で決定する。	

POINT

- 計画委員会の活動や学級全員の活動を統合して記述する方法、分けて記述する方法どちらでもよい。
- 事前・本時・事後の中で、どのように評価規準が位置づけられているかがわかるように書く。

6 本時の展開 〈記入例〉

(1) 本時のねらい

1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね会」をするために、会の内容を考えることができるようにする。

POINT 議題設定理由を踏まえ、本時の活動の意図を具体的に記述する。

(2) 展開

	話合いの順序	指導上の留意点（教師の手立て）	目指す児童（生徒）の姿 【観点】 〈評価方法〉
導入 10分	1 はじめの言葉 2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認 6 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員がスムーズに進行できるように学級の雰囲気を整える。 提案理由やめあてを可視化する。 めあて 「がんばったことを振り返ることができる会の内容と工夫を考えよう」 決まっている日時や場所等があれば確認する。 ①日時…7月14日5校時 ②場所…教室 ③ゲーム1つ、それ以外で1つ 教師の話は手短に、提案理由から学級全体の共同の議題として捉えさせ展開へ導く。 	
展開 25分	7 話合い (1) 話し合うこと① 「何をするか」 (学級全体) ・自分の考えを 出し合う 。 ・出された意見を 比べ合う 。 ・合意形成を図り まとめる 。 (2) 話し合うこと② 「がんばりを認め合う工夫は どうするか」 (個人) ・自分の考えを考える。 (グループ) ・グループ内で自分の考えを理由を添えて 出し合う 。 ・グループ案を練り合う。 (学級全体) ・グループ案を発表し、出された意見の内容を分かり合い 比べ合う 。 ・合意形成を図り、みんなの総意として まとめる 。	<ul style="list-style-type: none"> 司会が進行に困った時は方向性を示唆し児童（生徒）の合意形成を方向付けるような助言はしない。 自治的活動の範囲を超えそうな場合は適切に助言する。 必要に応じて、自分の意見に固執せず納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 	<p>◎互いの意見や可能性を生かし合った話合い活動の仕方を身につけている。 【知識・技能】 〈観察・発言〉</p> <p>◎異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け（個人として）取り組んでいる 【思考・判断・表現】 〈学級会ノート、観察〉</p>
終末 10分	8 決まったことの発表 9 話合いの振り返り 10 先生の話 11 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> よかった点や課題について自己評価し友達のよかった点などについても相互評価できるように助言する。 	

POINT ○話合い順序の流れ
 ・発達段階や議題の内容、タイムマネジメントの観点から話し合う数を決める。
 ・話し合う内容ごとに、出し合う→比べ合う→まとめる(決める)の流れで話し合う。

POINT ○学級会を充実させる教師の指導助言
 〈展開〉 ・話合いが混乱したときの助言 ・話合いを深める助言
 ・学級生活の改善を図るために「折り合いを付ける力」を育成し、合意形成に向けた手立てについて助言
 〈終末〉 ・合意形成したことへの価値付け ・計画委員会へのねぎらい
 ・今後の見通しや実践に向けての意欲付け
 ・前回の話合いと比べてよかったこと

重要

【合意形成】 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」P.53 参照
異なる意見や考えをもとに、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることで、最終的には「**自分もよくてみんなもよい**」というように集団としての意見をまとめること

留意点



- 議題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話合いに臨むようにすること
- 合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何を行うべきかということを主体的に考えて意思をもつこと

(3) 板書計画



7 事後の活動 (記入例)

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 【観点】 (評価方法)
7月7日 帰りの会	・役割分担が決まっていなければ係の役割分担をする 【学級全員】 ・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。【計画委員会】	・係は必ず複数名で担当し、全員で協力して活動ができるようにする。 ・学級会でできたことの要点をまとめて書くように助言する。	◎合意形成したことをもとに、議題設定理由を意識しながら友達と協力して実践している。
7月8日 ～ 7月13日	・計画を立てて、協力して取り組む。 ・帰りの会などで経過報告等情報を共有し合う。【学級全員】	・協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。	【思考・判断・表現】 (振り返りカード、観察)
7月14日 取組の当日	・取組の成果が発揮できるように協力してがんばったね会に取り組む。 【学級全員】	・協力したり工夫したりしている状況を称賛する。	◎成果と課題を振り返り自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしている。
7月15日 帰りの会	・一連の活動を振り返る 【学級全員】	・自分の態度を振り返るとともにめあてに基づいた振り返りを行い、自分の役割を果たすことや友達によかったところについても認められるように助言する。	【主体的態度】 (振り返りカード、観察)

8 その他の資料

※計画委員会 (学級活動委員会) が作成した活動計画、ワークシート、学級会ノートなど

《参考・引用文献》

- 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編 (文部科学省)
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校特別活動】
(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編
(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)